

7章 計画の目的と位置づけ

7-1 目標値の設定

まちづくりの理念と目標の実現を図るために、集約型都市構造の形成や公共交通の利便性を示す指標と将来の目標値を以下のとおり設定します。

①居住誘導区域内における人口密度の維持

居住誘導区域内における人口の集約状況の評価を行うため、以下の算定式を用いて評価を行います。

2040年の目標値については、居住誘導区域外に転入すると想定される人口の1割を居住誘導区域内に誘導することを目標とした居住誘導区域内の人口密度とし、46.2人/haを目標値とします。別府市においては、今後も多くの観光客が訪れ、別府の魅力が広がることによって、より多くの人々の移住定住が促進されると考えています。

居住誘導区域内の人口（人）／居住誘導区域の面積（ha）

評価指標	現況値 (2015年)	将来値 (2040年)	目標値※ (2040年)
居住誘導区域内の 人口密度（人/ha）	54.9	45.1	46.2

②都市機能誘導区域内の低未利用地の利活用の推進

都市機能誘導区域内に都市機能施設を誘導することにより、区域内の利便性が高まり、低未利用地の利活用が推進されることや、未利用地を発生させない取組みなどを推進することなどにより、現在の都市機能誘導区域の低未利用地の割合が現況より減少することを目標値に設定します。

都市機能誘導区域内の未利用地面積（ha）／都市機能誘導区域の面積（ha）

評価指標	現況値 (2015年)	目標値 (2040年)
都市機能誘導区域内の低未利用地の面積割合（％）	10.2%	10.2%以下

③居住誘導区域内における公共交通の利便性の向上

居住誘導区域内における公共交通の利便性の評価を行うため、以下の算定式を用いて評価を行います。2040年の目標値については、現況の公共交通利用圏内の人口割合を居住誘導区域内で維持するように設定します。公共交通についても、多くの観光客の利用等により更に利便性の向上が図られることが考えられます。

居住誘導区域内の公共交通利用圏の人口（人）／別府市人口（人）

評価指標	現況値 (2015年)	目標値 (2040年)
市内人口の内、居住誘導区域内における公共交通利用圏人口の割合	88.3%	88.3%以上

7-2 計画の進捗管理と評価方法

別府市立地適正化計画は、概ね20年後の令和22年（2040年）を目標年次としていますが、社会情勢の変化や上位関連計画の見直し等に応じて、適宜計画を見直す必要があります。

そのため、PDCAサイクルの手法を用いて、概ね5年ごとに本計画の評価を行い、必要に応じて計画の見直しを行います。





別府市

別府市立地適正化計画

別府市 建設部 都市政策課
(令和3年4月より都市計画課に変わります)

〒874-8511 別府市上野口町1-15

Tel (0977)21-1471

Fax(0977)22-9478

e-mail: cip-co@city.beppu.lg.jp

